

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691100051		
法人名	ふるさと企画有限会社		
事業所名	グループホーム大手町和心		
所在地	山形県新庄市大手町1-25		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 30 日	開設年月日	平成21年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 26 日	評価結果決定日	令和 4 年 11 月 17 日

(ユニット名 2F)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、窓からは新庄祭りや花火も眺める事が出来る恵まれた環境にある。市民プラザや図書館等の公共施設や公園、商店街へ歩いて行ける距離にあるため、催し物や地域との交流にも気軽に参加出来る。買い物や散歩・ドライブも地の利を活かしている。また同町内にあるGH大手町との交流や協力体制も整っている。「共に笑ってつながって」の理念のもと感性や感情に触れる交流をし、ご家族が中々連れていけない場所へも職員と外出して自然と触れ合うなど非日常を楽しんでもらえる。また、安心出来る環境作り日々努め、普段からご家族の思い悩み・不安に耳を傾けながら情報交換を密に行い信頼関係を築きながら、笑顔ある穏やかな暮らしを送る手伝いをさせて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「共に笑ってつながって」を理念に掲げ利用者とかかわりを最優先に、お茶の時間やテレビを見ながら方言も織り交ぜた親しみのある言葉に会話も弾み、信頼関係を結ぶかけがえのない時間となっています。また経験豊富な職員が多く、些細な変化も敏感に察知して経験から引き出される的確なアイデアで生活の質向上に繋がっています。新型コロナ感染防止のため面会も窓越しにせざるを得なくなり、広報紙や毎月のお便りと写真で生活の様子を伝え、家族からのお礼の言葉が職員の意欲向上の源となっています。自粛生活の中、事業所内でのレクリエーションなど楽しみ事を多く取り入れ、手伝いには「ありがとうございます」の言葉で誇らし気な表情を引き出すなど、笑顔あふれる事業所を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己外部 項目			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務室・リビングに掲示し、全職員が意識できるようにしている。所内研修も行っている。	利用者の意向を大切に、一人ひとりのペースや生活習慣を尊重して満足の笑顔が見られるよう寄り添っている。毎年理念に沿って年間目標を立てて全職員が意識を統一し、折に触れ確認しながら達成に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でご利用者は地域と交流は持てていない。事業所では町内の資源回収に協力している。	コロナ感染防止のため、これまで行ってきた地域交流はできなくなり、資源回収・フードドライブ・新庄祭りへのお祝いなど町内ボランティア活動協力にとどまっている。新庄市報には年間数回広告を掲載し、サービス内容の周知に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談は受け付けているが、こちらから積極的に出向いたりはない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者のサービス状況の報告は毎回行っており、評価をいただいている。	同法人の「グループホーム大手町」と合同で、「身体拘束の適正化のための対策を検討する委員会」も兼ね、5月は対面で実施し7月以降は書面報告としている。利用者状況・活動行事・身体拘束状況などを報告し、助言を得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情を理解してもらい、指導やアドバイスをいただいている。	利用者が住民登録する市町村の行政担当者から運営推進会議に出席してもらい、現状の把握と理解を得、コロナワクチン接種では協力して一斉接種を終えている。行先が決まらない利用者の受け入れ要請にも応じ、相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	外部からの侵入防止のため、玄関は常時施錠している。身体拘束は、ご家族の同意を頂いた上で適切に行っている。	「身体拘束の適正化のための対策を検討する委員会」では身体拘束状況を報告し、助言から記録整備などに活かし、危険回避の為のベッド柵使用には解除に向けて全職員で話し合いを重ねている。また不適切な言葉を発しないよう実技を伴った研修をして理解を深め、帰宅願望の方には全職員が統一した対応で抑圧のない生活に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員同士連絡を密にして注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から要望があった時には、協力し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時、契約後いつでも疑問に対し説明を行っている。改定時の説明は書面で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と、意見・要望は家族に知らせサービスに活かしている。運営推進会議でも報告している。	電話連絡時などに利用者の様子を伝え、家族アンケートも実施して意見や要望を聞いており、お礼やねぎらいの言葉が多く聞かれている。3ヶ月毎発行の「和心新聞」や毎月の生活の様子を撮った写真と担当者からの手紙は家族に喜ばれている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議・職員会議で意見や提案を出してもらい、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ助成金や両立支援助成金等を積極的に活用している。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修の機会を確保している。	コロナ禍で外部研修の機会が少なくなっているが、参加後の資料は全職員に回覧し共有している。また内部研修に力を入れ、隔月でユニット交互に輪番の職員がテーマ決定・資料準備・講義を担当し、受講者と講師双方の成長が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上地区GH連絡協議会では、Webで情報交換をしている。	山形県グループホーム連絡協議会に加入し、利用者状況や行事についてのアンケート調査結果で同業者の動向が示され参考になっている。面会の条件や外出の方法など迷いを解消し「降りないドライブ」をする後押しにもなっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談では、ご本人に会い直接話を聞いている。また、担当ケアマネジャーから詳しく情報を頂くようにしている。ご本人が何をしたいか、不安なことはないかを理解し、安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談において、家族の不安や要望を聞き取り、安心してサービスを利用できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーと密に連絡を取り、必要に応じて主治医とも連携しながら、支援開始時に必要なケアの提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で暮らして頂けるよう、洗濯物干し・たたみ等を行って頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、状況報告を兼ねて話をしている。また、毎月ご本人の近況を便りで出している。コロナ禍で面会に来られないご家族に対しては、電話で連絡し情報共有を行っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の知人や親戚・兄弟姉妹の方の面会がある場合、情勢を見て、窓越し又は対面での面会が出来るよう配慮している。馴染みの場所へドライブをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気兼ねなく交流できるよう席の配置を考え配慮している。また共同の作業を通じて協力したり、利用者間の会話を取り持ったりするよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居される際、これまでの生活環境支援の内容、注意点などの情報提供を行い、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう心がけている。また、退居されて数年たった今でもご家族の方が育てた野菜を持って来所して下さる等のつながりがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談時にご本人の生活スタイルや暮らし方の希望の聞き取りを行っている。また家族とも話をしてご本人の意向を確認している。入居前から行きつけの美容室に通うことや、新聞の購入など、ご家族に協力して頂きながら行っている。	入居前面談の情報や、かかわりの中で見えてくる心身の些細な変化や言葉は見逃せば大きな問題になる事を肝に銘じ、大事に記録し共有している。食後やお茶の時間の会話内容から長寿会(誕生会)のメニューに取り入れるなど、希望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に聞き取りをしたり、ご家族に生活歴を記入してもらう。ケアマネージャーや身内の方にも会話の中で情報提供して頂きながら生活習慣や得意とすることなどを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の流れをシートに作成し、排尿ペースや睡眠ペースの把握に努めている。また、毎日の引継ぎはフロア内職員が周知できるよう引継ぎノートを使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を取り入れながら、ご本人が快適に過ごせるように担当者で話し合い介護計画を作成している。暮らしの中で見えてきた課題をチームで話し合い、意見やアイデアを出し合って介護計画に取り入れている。ご家族に確認とサインをもらっている。	本人や家族の思いを大事に、一人ひとりの状況を把握して支援内容を立案し、個別支援会議やフロア会議で評価や検討を行い現状に即したプランとなっている。土いじりが好きな方や編み物を趣味にしていた方など、楽しみを継続できるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・健康管理記録・ケアプランチェック表を活用し、職員間で日中と夜間の様子・状況の把握を行い、相談できる体制を作っている。職員間ノートの活用により、統一したケアが行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同町内にある公共施設の利用や地域の催し物を把握し、利用者の個々の嗜好に合う物を勧め、ご本人の意向のもと参加を支援している。現状では外出を控えているが、市報などを読んで頂き地域の情報を取り入れている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医だけでなく、入居前からのかかりつけ医の通院の継続をするかの選択をご本人とご家族の意向を踏まえ決定して頂いている。各かかりつけ医に相談しながら関係を築き連携を深めるようにしている。	入居時にほとんどの利用者が毎月往診のある協力医を希望してかかりつけ医にしている。受診の際は看護師と介護職員が対応して日頃の様子を伝えと共に、医師から適切な指示をもらい連携しながら健康管理に努めている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が毎日の健康管理や状態の変化に各々の視点からの意見を介して相談・連携し、適切な受診などを行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	生活記録・健康管理記録を活用し、生活介護概要表を作成したり、かかりつけ医の紹介状も合わせ、適切な医療が受けられるよう、病院の相談員と情報交換や面談を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合の対応の指針を説明し、ご家族の同意を得ている。重度化に関しては医師・家族・職員がご本人の意向を踏まえ相談し、適切な支援が受けられるように対応している。また、身体状況が変わった際にはご家族に報告や相談を行い情報を共有している。	「重度化した場合における対応に係る指針」に看取りはしないことを明記して理解を得ている。状態の変化に伴い医師や看護師から家族等に説明があり、他施設への申請も含め今後の方針を共有している。全介助の利用者も経口摂取ができれば入浴なども工夫して行っており、事業所でできる最大限の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	所内研修を行い、バイタルの正常値の確認や異常時に起こりうる疾患や対応、連絡方法を確認している。救急の初期対応に関しては、AEDを使用した救命救助手当の実演・実習を行い、迅速に対応できるよう努めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火担当者が火災・災害に関する知識を職員に呼びかけ、予防に努めている。避難訓練により職員の対応を意識付けを行い、消防署・防火設備業社より助言して頂き、改善に努めている。また、近隣の方々からも協力して頂けるよう関係作りを行っている。	「ひなん確保計画」を作成してあらゆる災害に備え、備蓄や非常時持ち出し品も整備している。9月に水害想定避難訓練と業者による防災設備の点検を実施し、次回は地震想定訓練を予定している。	2階建てでもあることから年2回の避難訓練だけでなく、日頃からマニュアルの確認や利用者の避難誘導訓練などを数多く重ねて有事に備えていくことに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人一人の性格を把握し、その方に合った声掛けと対応を行っている。職員同士で情報を共有し、その方の気持ちの変化に即座に対応できるように努めている。	介護や認知症の研修を職員が講師となって行っており、対応や言葉掛けを話し合いながら意識を統一してケアの向上を図っている。特に排泄や入浴介助など羞恥心やプライバシーを伴う介助には「嫌がることはしない」対応を心掛けている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いや希望を表して頂けるように、日頃からコミュニケーションを取っている。職員と良い関係が築けており、ご本人の希望や自己決定を尊重できている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、ご本人のペースで生活できるように配慮している。ご本人の希望を確認しながら、活動・行事を進めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時に着たい服を一緒に選んで頂いている。また、衣類の汚れ・ほつれ・破れ等に気付いた時には、声を掛け洗濯・修復をし、気持ちよく着て頂けるようにしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好を把握し、食事を楽しんで頂いている。月に一度は旬の物を使用したホームメニューを職員で考え、提供している。	食材配送業者の献立を職員が3食手作りして提供している。月1回のホームメニューでは利用者の好みを取り入れた郷土料理が登場したり、長寿会(誕生会)では本人の希望で出前の寿司が振る舞われたりして喜ばれている。また利用者から教わる笹巻作りも楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養バランスやカロリーに気を付けた食事を提供している。一人一人の状態に合わせた食べやすい食事の形態を工夫している。水分摂取量が少ない方にはこまめに声掛けしたり、好んで飲まれる物を提供したりしている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来る方には声を掛け、できない方には見守りや介助を行っている。一人一人の口腔内の状態を把握し、口腔ケアに努めている。年に一度歯科医の健診を行い、状態を確認している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の生活リズムやタイミングに合わせ声掛けやトイレ誘導を行っている。訴え時やトイレのサインを見つけた時は速やかに対応するよう努めている。自立している方にも排便があった際にはナースコールを押して頂き、量や形態を確認させて頂いている。	自立している方はもちろん、定時誘導している方や寝たきりで全介助の方もトイレでの排泄が維持できるよう支援している。排便の有無や状態をチェック表に記録し、排便コントロールの目安や健康管理に繋げている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように下剤の調整をしている。加えてこまめに水分摂取を促したり、食事やおやつでは乳製品の含まれるものを提供している。運動面ではテレビ体操や足こぎ運動を取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日であることを伝え、ご本人の意志を確認してから入浴している。拒否がある場合は、時間や日付をずらして入浴して頂いている。	本人の希望も聞きながら週2回を目途に朝食後のバイタルや状態を確認して入浴を勧めている。ゆっくり湯船で寛いでいる方には長湯にならないようこまめに声がけし、身体で気になった所は看護師や医師に報告して判断を仰いでいる。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態や気分に応じて日中でも居室で休んでも頂けるようにしている。夜間気持ちよく眠れるように、日中は体操やマッサージ、レクリエーションを行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で症状や薬の変化がある時は連絡ノートに記入し目を通している。また、新しい薬が処方になった際は特に気を付けて観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や生活歴に基づいてできることを行っている。毎日ご本人の状態を見ながら洗濯たたみやメニューの記入、掲示物の作成等を行っている。季節の行事や長寿会、レクリエーションで気分転換を図っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出を控えているが、天気の良い日に少人数での車窓からの景色を眺めるドライブや、マスクを付けたうえでのホーム前での日光浴等を行っている。	コロナ禍前のような外出はできていないが、車から降りないドライブや人混みのない所へ出かけるなど工夫して楽しんでいる。新庄祭りの山車をホームの前や二階窓から見物して利用者の輝いた笑顔が見られている。また遠方の家族と外泊して(検査をした上で)見違えた姿で帰って来る方もいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談のうえ、所持して頂いている。ご本人がお金を持つことで安心して頂けるようにしている。出費があった際にはご本人と職員間で確認し、安心して頂いている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は職員が充電を支援し、いつでも連絡できるようにしている。ご本人の訴えに合わせ、ご家族と電話をして頂いている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた温度調整や、壁面への掲示物の工夫を行っている。季節ごとに咲く花を生けて季節を感じて頂いている。家具の配置は転倒しないよう気を配っている。	リビングや廊下の壁面には季節毎の装飾を施し、レクリエーションや茶話会でも季節感を採り入れて「今」を感じてもらっている。合同行事の夏祭りでは1Fと2F皆で旗上げゲームや花笠踊りで大いに盛り上がりを見せている。ふだんはテレビの前のソファで気の合う仲間同士ゆったりと寛いでいる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くにおいて会話をしたり一緒に作業をしたりできるように椅子やソファを配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談の上でご本人が使い慣れた家具や寝具を使い、心地よく生活できるようにしている。ご本人の状態や嗜好に合わせ居室の壁の掲示物を工夫している。	備品の洗面台や棚以外はベッドや寝具、タンスなど使い慣れた物を自由に持ち込んで、自宅と変わらない部屋作りをして居心地良く過ごしている。センサーマットを使っている方もおり、夜間は特にちょっとした物音でも気づけるよう安全に配慮した見守りに努めている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉の横に名札を掲示したりトイレの貼り紙をする等して、ご本人がわかりやすいように配慮している。安全に配慮した家具の配置をしている。		